



地域共生応援大使
ふっころ

あなたとフクシを結ぶコミュニケーション誌

福祉だより信州

社会福祉法人長野県社会福祉協議会 ふれあいネット信州 <https://www.nsyakyo.or.jp/>

vol.812
JAN.2024

編集・発行
長野県社会福祉
協議会



CONTENTS

ちいきとあなたと、ともに暮らす…………… 2P

誰もが対等な働きやすい職場環境を整え、
母親たちの笑顔のために切れ目のない支援を

特集 信州ふっころフェスティバル 2023

信州の介護と地域をもっと元気に！…………… 4P

ふっころ Information…………… 7P

ともいき ～ともに学び ともに生きる～…………… 8P



「福祉だより信州」は
共同募金の配分金で
発行されています。



誰もが対等な働きやすい職場環境を整え、
母親たちの笑顔のために切れ目のない支援を



毎号、福祉の現場に新しい風を吹き込む
スタッフをご紹介します。

合同会社 Mom's sun (ママズ・サン)
施設長 看護師 キャリアコンサルタント
たかはし え み こ
高橋 江美子さん

産後ケアや育児相談事業で開業し、現在は保育園も
運営する「Mom's sun」。創業者の一人、高橋江美子
さんは、施設長兼看護師として、これまでの仕事の経験や
自らの育児経験も踏まえつつ、一人ひとりの母親に寄り
添った支援と働きやすい職場づくりに努めています。

ママたちの楽しい育児のために、チーム一丸でサポート



1 未満児の異年齢保育で社会性を育む小規模認可保育園の「ひかりほいくえん」。ICTの活用で保護者とのやりとりも安心かつスムーズに。

2 3 保育士や管理栄養士、掃除スタッフなど役職を問わず皆が同じ制服を着用し、対等の立場を重視。20～80代の職員が揃い、3園のジョブローテーションも積極的に導入。

4 母親の負担軽減のため、布団などは園で用意する手ぶら登園に。保護者に近い存在の専門家として、対話も大切にしている。

経験を生かし寄り添った支援

長野市内で3カ所の保育園を中心に、妊娠、出産、産後、育児の幅広いサポートを展開する「Mom's sun」。施設長で看護師の高橋さんは、園内の助産院で産後の女性の心身のケアや育児相談を行いつつ、職員のマネジメントにも取り組んでいます。

元々は一般企業のOLだった高橋さん。結婚を機に出身地の新潟から長野に移住し、病院の受付業務に就いた後、転職で産婦人科の看護助手になったことが転機となりました。働きながら看護学校に通う学生に刺激を受け、高橋さんも看護師を目指すように。妊娠・出産を経て、長男を生後6カ月から保育園に預け、仕事を続けつつ定時制の看護学校で勉強。第二子も生まれ、足掛け5年、32歳で正看護師の資格を取得しました。そして産院に就職すると、実家が遠く頼れる人もいなかった中で悩んだ自らの育児経験を仕事に生かしたのです。

当時は「母親だから退職して子どもに尽くすのは当然」や「母乳育児がいい」という世間一般の母親像のイメージが自分と違うことが苦しくて、同じ思いを持つママがいたら「母親だって好きなことをしていい。自分の気持ちや大事にしたいことを周りに伝え、子どもを人に預け、一人で育児をしなくていい。お母さんが楽しく子育てできることが大切」と伝えたいと思っていました。その思いが私の仕事の原点です、と高橋さんは話します。

チームだから職場環境も大切に

その後、産後に退院した母親たちとずっと長くつながり、要望に応じて厚く支えたいと、2014年、40歳の時に同僚の助産師で現 Mom's sun 代表の池尻由美さんと「Mom's sun」を独立開業。沐浴代行や掃除なども含む気の利いたサービスと専門家の視点、母親に寄り添った産後ケア事業の評判が次第に口コミで広がり、一時預かりや病児保育も行う保育園の開園に至りました。

現在は3園で76名の多様な職種の職員が勤務。チームワークを大切に働いています。大きな特徴が、週休3日制の導入です。

「産後ケアをしていると元保育士のママに出会うことが多く、勤務時間が長く労働環境が過酷な保育の現場の実態を知りました。その環境を変えないと保育士の仕事は続かないと考え、1日の勤務時間を8時間から10時間にする分、残業を廃止して週休3日にし、休日はしっかり休む働き方にしました」

目指すのは、母親も職員も、それぞれのライフステージに応じた切れ目のない支援。そう語る高橋さんの言葉は、輝く太陽のような力強さに満ちていました。

合同会社 Mom's sun

【住 所】長野市稲里町下氷鉋 556-1

【電話番号】026-214-7456

<https://moms-sun.com/>

ホームページ



信州ふっころフェスティバル2023

「信州の介護と地域をもっと元気に」
まちの中で発信!

信州ふっころフェスティバルは「ともに生きる」理念と「福祉・介護の魅力」を発信するため、毎年11月11日の介護の日の前後に開催しています。

今年度は、介護の日当日、松本市のイオンモールと中町商店街を結ぶまちの中で、福祉関係団体、地元の介護・ボランティア関係者、学生チームなどが協力して開催しました。

信州ふっころフェスティバル 2023、11月11日(土) 松本市で開催。主催：信州ふっころプラン推進会議（県内の地域福祉を推進する116団体で構成）

イオンモール松本のきらめきコートでは、盲目のギタリスト田川ヒロアキさんの演奏、介護の仕事を目指す学生や介護の職場で働く介護職員が介護技術を競う「ケアコン2023」の表彰などを行いました。多くの人の目に触れることで、福祉・介護の魅力を知ってもらうきっかけとなりました。



【ケアコン2023 最優秀賞（長野県知事賞）】
規定部門：サイネリア（長野県福祉大学校介護福祉学科）
エピソード部門：チームレインボー（社会福祉法人ハーモニー福祉会）



【会場】イオンモール松本、中町・蔵シビック館・中町商店街、第三地区公民館、四柱神社

午後の「フクシニア」（福祉・介護のお仕事体験会）には、親子30組が参加し、福祉を学ぶ学生たちから、保育や介護の仕事の魅力を学びました。「蔵のまち」として有名な松本市中町商店街では、「福祉の仕事フォトコンテスト展」を開催。松本大学の学生チームが、まちかどクイズラリーで両会場を結び、福祉・介護の魅力を発信しました。

フォトコン 2023

第1回福祉のしごとフォトコンテスト

小・中・高校生が福祉・介護スタッフに出会い“ありがとう”の瞬間を写真に収め、福祉のしごとの魅力を発信するフォトコンテストを、松本市・中町商店街にご協力いただき、まちかどギャラリーとして展示しました。



受賞作品は
こちらからご覧
いただけます！



第72回 長野県社会福祉大会

松本市街地にある四柱神社にて、地域や社会福祉施設等において、長年にわたり様々な福祉実践を続け、長野県内の福祉向上に功績のあった方々に表彰と感謝を行いました。



- ・長野県社会福祉協議会会長表彰 (56名、19団体)
- ・長野県民生委員児童委員協議会連合会会長表彰 (119名、4民児協)
- ・長野県共同募金会感謝 (3名)
- ・長野県身体障害者福祉協会理事長表彰 (6名)

ライブ

東京2020パラリンピック開会式で布袋寅泰氏率いるデコトラロックバンドに参加していた盲目のロックギタリスト田川ヒロアキ氏が出演。ギターネックを逆から持つ独自の演奏スタ

イルで演奏いただき大きな声援を受けました。また、パラリンピックでの秘話なども披露していただきました。



ふくしニア

(保育・介護のお仕事体験)

30組の親子が参加し43名のこどもたちが看護・介護・保育のブースで、赤ちゃんのだっこの仕方やおむつ交換、介護リフトの体験を行いました。体験したこどもからは「楽しかった。おむつ交換が難しかった。」等の声が聞かれました。

福祉を学ぶ大学生や高校生が、こどもたちにこれまで学んできた福祉の知識や技術を生かして、指導にあたりました。



スケッター対談

福祉・介護事業所の業務のうち、清掃・ベッドメイク・レクリエーションなどの介護の周辺業務を、学生やシニア層など幅広い層に向けた有償のお手伝い＝“助っ人”として募集するマッチングサービス「スケッター」を提供する(株)プラスロボ代表の鈴木亮平氏が登壇。福祉・介護分野における人材確保、様々な立場の人が働きやすい環境づくりなどについて、阿部長野県知事、上

条百里奈氏(介護福祉士/白梅学園大学嘱託研究員)と対談しました。



福祉・介護体験 PR

身体的に外出が困難な方でも様々な体験ができるVR体験、同じ立ち位置で競技できることで注目されているeスポーツ体験、福祉について遊びながら触れることができる福祉人生すごろく、リラックス効果や孤独感・苦痛を緩和する力があるとされているハンドマッサージ体験など、様々なブースを設置し、福祉・介護の魅力を発信しました。



認知症フレンドリー講座 瀬戸内寂聴 99年生きて 思うこと

2021年11月に亡くなった作家で僧侶の瀬戸内寂聴さんに密着した映画を上映するとともに、認知症のVR体験会を地元企画として実施。寂聴さんの晩年の姿や映画の中で語る率直な思いを通して、「老い」との向き合い方を考えるきっかけとなりました。



日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和5年度

ボランティア活動保険

商品パンフレットは
コチラから
(ふくしの保険ホームページ)



保険金額・年間保険料（1名あたり）

団体割引20%適用済／過去の損害率による割増適用

保険金の種類		基本プラン	天災・地震補償プラン	特定感染症重点プラン
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円		
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額	6,500円		
	手術保険金	65,000円		
	入院中の手術	65,000円		
	外来の手術	32,500円		
	通院保険金日額	4,000円		
賠償責任	特定感染症	補償開始日から10日以内は補償対象外(*)	初日から補償	
	地震・噴火・津波による死傷	×	○	○
	賠償責任保険金(対人・対物共通)	5億円(限度額)		
年間保険料		350円	500円	550円

*3月末までに契約手続きが完了し、前年度から継続して契約される場合は初日から補償します。

<重要>

- ◆基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆特定感染症重点プランでは中途加入の場合でも補償開始日より特定感染症が補償対象となります。
- ◆年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事
保険会社〉

損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03 (3349) 5137

受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店

株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03 (3581) 4667

受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

(SJ22-12223より抜粋して作成)

令和5年度

社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険

検索

老人福祉施設、
障害者支援施設、
児童福祉施設などに

スケールメリットを活かした割安な保険料で
充実補償をご提供します!

◆加入対象は、社協の会員である
社会福祉法人等が運営する社会
福祉施設です。

プラン1

施設業務の補償

(賠償責任保険、動産総合保険等)

① 基本補償(賠償・見舞)

保険期間1年

▶ 保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
お見舞い等	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時100万円 入院時1.5~7万円 通院時1~3.5万円

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、雇用慣行賠償責任保険、役員賠償責任保険、サイバー保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。●

団体契約者

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事
保険会社〉

損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03 (3349) 5137

受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店

株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03 (3581) 4667

受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

プラン1

オプション5

施設の感染症対応費用補償

休業補償から各種対応費用までワイドな安心

- ①休業や縮小営業による収益減少はもちろん、収益減少を防止・軽減するための人件費なども補償
- ②消毒・清掃費用や自主的なPCR検査費用など、かかった費用を幅広く補償
- ③感染症対応特別費用で定額20万円を早期に受取り

プラン2

施設利用者の補償

プラン3

職員等の補償

プラン4

法人役員等の補償



(SJ22-12033から抜粋)



誰一人取り残さない、 災害にも強い地域づくりをみんなで実現しよう

災害にも強い地域づくり

日頃
からつながり、
災害時にも頼れる
本部機能

長野県社協 災害福祉支援本部

現場で
判断できる職員、
現場の声を尊重する
組織風土

4本の矢で推進!

防災福祉の推進



- 災害時要援護者支援
- 平時のつながりづくり
- 災害時の総合相談、貸付
- 災害時住民支え合いマップ

DSAT 災害ボランティア センター運営支援



長野県との協定
重機系団体との協定

- DSATの養成、充実
- 市町村ごとの「協定」促進、活動環境整備

災福ネットの DWAT 活動促進



長野県との協定

- 災害派遣ふくしチームの養成、派遣
- 施設 BCP 策定支援

企業、NPO 等 多分野との連携等



- N-NET (長野県災害時支援ネットワーク)への参画
- サスながの (災害ボランティアセンター応援企業パートナーズ)の運営

災害コミュニティ・ソーシャルワークの確立 支援情報を「アプリ」で共有

DSAT

災害ボランティアセンター運営支援者チーム



令和5年9月の台風13号で被災をした福島県いわき市。長野から県・市町村社協職員によるDSATメンバーが5名、のべ42日間、災害ボランティアセンター (VC) の運営支援を行いました。

被災地域内の自治会単位にサテライト (地域拠点) を設置し運営をサポート

県内市町村社協が開催する災害ボランティアセンター設置・運営訓練では、地域拠点のサテライトを意識して被災者からニーズ (困りごと) を丁寧に聞きとることを重視しています。

災害ボランティアサポーター講座を受講した住民も参加 (安曇野市)



DWAT

長野県ふくしチーム員

災害時に開設される一般避難所や福祉避難所等へ、福祉支援を展開するチーム員の養成・スキルアップを行っています。約190名のチーム員が登録し、県・市町村の総合防災訓練のほか、地域や福祉施設の防災学習会等で活躍しています。



令和5年度長野県総合防災訓練 (中野市)



児童養護施設にて
避難訓練、チーム員による防災講座

予告

N-NET フォーラム

行政・社協・NPO・企業・大学等の連携

令和6年1月26日 (金)~27日 (土)
長野市生涯学習センター TOIGO

災福ネットセミナー

保健・医療・福祉の連携

令和6年2月15日 (木)
松本市浅間温泉文化センター

地域福祉を基盤にした 被災者・被災地支援セミナー

令和6年2月16日 (金)
松本市浅間温泉文化センター

●詳細は、長野県社協 HP (<https://www.nsyakyo.or.jp/>) にてご確認ください。

お問い合わせは… 長野県社協 まちづくりボランティアセンター TEL.026-226-1882





ともいき

ともに学び ともに生きる

多様なニーズや個性を持った人たちが集まるセルフヘルプ活動やピアサポートなどの取組を紹介します

レンタル高校生プロジェクト「若い力、貸します」



地域包括職員と高齢者のお話相手をする生徒たち



高齢者のお宅で庭木の剪定も

10月25日(水)に上田千曲高等学校の生活福祉科に所属する生徒12名が上田市城下地域の高齢者宅を訪問し、困りごとを解決する取組『レンタル高校生』を行いました。今回は4名の高齢者のお宅でそれぞれお話をしたり、庭の木を切ったり、趣味の絵画を一緒に観賞したりしました。上田千曲高校の生徒たちは普段関わることのない年代の方と関わり、コミュニケーションを学んでいる様子でした。実際に高齢者宅に訪問した生徒さんからは「ご本人が描いた絵画を見せていただきました。日々の生活ではあまりできない体験でした」という感想が聞かれました。

また、高齢者の皆さんからも、「若い人と話すことで元気をもらえる」や「またお話したいから頑張って毎日を生きて」といった素敵な言葉が溢れていました。地域の中に大きなエネルギーを持った高校生が入ることで地域全体が明るくなったり、高校生自身にとっても大きな学びになることがたくさんあります。上田の地で福祉を学んだ素敵な高校生たちの今後の活躍にも注目です。

上田千曲高等学校 生活福祉科

〒386-8585 長野県上田市中之条 626

TEL: 0268-22-7070

<https://www.nagano-c.ed.jp/chikuma/index.html>



『やま』

クレヨン画

さとう さだお

作者：佐藤 貞夫 (78才・長野市在住)

佐藤さんが通う福祉事業所での月一回のアートワーク。3年ほど前から参加し始めた佐藤さんに、最初画用紙とクレヨン渡して、『なんでも自由に書いていいですよ。』と伝えたのだが、佐藤さんは困った顔をして『絵なんか普段描いたことねえから、なに描いていいかわからねえ。』『どうやって描いていいかもわからねえ。』と困った表情だ。そこでサポーターが黒いクレヨンで○△□を画面にたくさん描いて、塗り絵のように好きな色で○△□を塗りつぶしてみよう、と提案した。『それなら簡単だ』と佐藤さんはぐいぐいとクレヨンを塗りだした。最近は雑誌の中の写

真を見ながら、自分で輪郭線を引いてクレヨンでぐりぐりと塗るようになっていく。

すっかりと晴れた青空、雪をかぶった山並み。クレヨンで力強くぐりぐりと塗り込むその指先から生まれる作品。気持ちよさと楽しさが伝わってくる。まだまだ変化していく佐藤さんのクレヨンぐりぐりが楽しみだ。

(ながのアートミーティング 関 孝之記)

Webサイトもご覧ください!

ご感想・お問合せ・掲載希望等は
下記へお寄せください

長野県社会福祉協議会 総務企画部 企画グループ
TEL 026-228-4244/FAX 026-228-0130
E-mail info@nsyakyō.or.jp

長野県
社会福祉協議会



福祉・
介護べんり帖



長野県福祉研修共同サイト
きやりあねっと



信州福祉・
介護のひろば

